(本號十面)　(明治廿五年三月十一日遞信省認可)　明治二十七年二月十一日　第三千八百八十九號　(定價金二錢五厘)

時事新報

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

明治廿七年二月十一日 日曜日
舊曆甲午正月六日(甲、申)
日出午前六時三十四分
日入午後五時二十七分
月出午前九時十一分
月入午後十時三十六分
滿潮午前八時四十三分 午後八時五十九分
(西曆一千八百九十四年)
年始より四十二日
年末まで三百二十三日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價(府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す)

一號 貳錢五厘○一箇月 前金五拾錢○三箇月 前金壹圓四拾五錢○六箇月 前金貳圓八拾五錢○一箇年 前金五圓六拾錢○月曜日休刊(此他大祭祝日年始年末等一切休刊せず)

●前金 一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一 日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津 一箇月 金拾三錢
二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國 一箇月 金六拾錢
三 北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島 一箇月 金三拾錢
四 香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲 一箇月 金六拾五錢
五 露領浦潮斯德、清國諸港 一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十五錢	十一錢	十錢五厘

●●●●廣告料定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき旨に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

時事新報

政論の穩激

藩閥政府を打破して責任内閣の實行を望むとは民黨の高旌に大書して其頭を飾るの綱領なり正々堂々至極尤もなるに相違なけれども彼を打破し是を實行するに就ては先づ第一に政黨の狀況果して能く之に堪ふるや否やを見定むるこそ肝要なれ若し民黨とは漠然たる名稱にして政府反對黨と云ふに過ぎず其反對の中には曾て吏黨と稱せられたる國民派もあり敎化の時高き自由黨とても前々ろの圖を異にするのみ其他改進同盟同志等種々雜々のものありて何れも第五議會までは議院に百名以上の黨員を有するものとてはなく而も互に猜忌して足並の不揃なるのみと迚も英國流の責任内閣を遂行するに足らざるは事實に徵して明白なり畢竟我國民の未だ新政體に不慣なるに由るものとなれば藩閥政府の改革斯らざるに非ずと雖も暫く國事大切と諦めて國會にても政府が傍若無人の擧動を誡めつゝ徐々に雙方の改良發達を謀めたらば遠からず責任内閣の運命に到達して甚だ過激ならん性急の妙訣決して無用なりとは我輩の常に陳べたる所にして國會開設の以前より特に此點に重きを置き官民の間に勸告して論說怠らざりしかども政府は勿論民間政治家もます〳〵愼重の躰を失ひ獨り我輩の憂慮を實にして毫も勸告を用ゐざるは寄に歎息の至りに堪へず抑も國會論の始めて起るに當てや世に倘早と及期との二派ありて甲は今の民度にては徒に國事を誤るのみなりと云ひ乙は早く開設するに非ざれば練習の暇なかる可しと論じて其勢力相下らず纔に及期派の勝利に歸したれども兩派とも國民の新政に不慣なるは當さに今日の如くなる可きを想見し當分練習の爲めにとて議論一決したるのみ即ち及期派とても口には方便として民權の大に伸暢せざる可らざるを唱へながら心には國會の權限とても府縣會の如きものならんと推測し又現に府縣會の例に照し國會開設の早からざるを論じたる者もありて憲法の發布を見るに及び始めて其寛大なるに驚きたる次第なりしにイヨ〳〵開會となりて後は唯その權限に任せて急進を事とし絕えて練習を意に介せざるのみか條約勵行論の如きものさへ提起して以て攻擊の具となすに至りては將さに國事を誤らんとするものにして當時の倘早論者に先見の明を誇られても或は申譯なきが如し誠に心外の限りと云ふ可し凡そ穩と激とは事物の優劣を量るの尺度となす可し人の穩なるは大人の常にして其激なるは少壯の風なり言論文章も亦これによりて優劣を見るに足るとすれば今の政論は寧ろ退步して拙劣に近づくの觀なき乎農工商賈等は日に月に進み人の程度も總べて昔日の比に非ざる目出たき國内に於て獨り政論のみ次第に下落に傾くとは實に異相と云はざるを得ず今の有樣より察するときは國會議員の如きも政論と共に人物の下落を來たし第六第七撰擧の度毎にいよ〳〵下落して底止する所なかる可し蓋し其責の歸する所いづれにありや政治家の爭權に汲々たる漫に激風を煽動するが故か或は人民の物數奇なる其ます〳〵激なるを見て之を喜ぶが故か箇々人々に就て聞けば皆その激を笑ひ且つ嘲りて而して實地に至れば自から嘲笑せらるゝの人となりて怪まず不可思議千萬とこそ云ふ可けれ我輩は政治家と云はず一般人民と云はず篤と從來の沿革と方今の得失とを考査して一讀翫味あらんを望む者なり

雜錄

○開けて嬉しき金時計(外國笑話意譯)

ツイ此頃婚禮の式を濟ませし鴛鴦の夫婦の中睦じく愛は誰に遠慮も内證の奧まりたる室の中、瓦斯の光を朦朧として時へるが如く良人は夕暮の新聞紙を讀み妻は小說に首差しかざして餘念なし正に是れ佳人才子の好一對、相合傘にも似たる斯の境涯を見下しなば天津天女もチヤン〳〵を起して墮落す可く久米の仙人も飄まぎれに通力を失て外科醫者の繃帶とならんず有樣なり斯る折しも何とかしけんおころは讀み掛けの小說をば急に膝の上に打伏せ愁然として火爐の中を見詰めたり良人はケゲンなる顏して

これおころやお前は如何したんだヨ

と問へば妻は最と悲しげなる風情にて

貴郎はバルザツクの作を澤山お讀みなすツたことが御在ますか

と問返すにぞ良人は不意を食て先づ當り障りのない返辭をして云ふやう

ホンの少々ばかり讀だことはあるが餘り感心したこともないよ

妻は尙も愁の眉を開かずして

だがチ貴郎、バルザツクは名人の一人だと評判されてるでは御在ませんか

と云へば其實、小說には明るからぬ良人は心中、窃に愕きて

ウン成程然々、お前の云ふ通りだ彼の作者は人情を穿つに掛けちやア大名人の一人だと專ら世間で評判するよ

此言葉を聽きたる妻のおころは復もや長大息して暫掛け居りし長椅子の上に置きたる蒲團の中に顏を沈めヨヽと計りに泣入りたり

良人は愕然として暫時は言葉も出でざりしが斯くてあるべきにあらねば妻が伏したる後髪の上に首差出し聲和げて

おころや〳〵お前はマア一體全體ドツドー如何したのか話して聽かしてお吳れナ

妻は尙も咽上げつゝ

一寸まアよを貴郎、私はチエ貴郎、後生お願ひだから貴郎の昔を聽かして下さいナー

良人 何だと此身の何が如何したとオヤおころや驚いたおころさんお前さん野生を痴者にする積りだねアツハツハー好い膽だア中々隅にやア置けませんぜ

妻 彼れサア惜いことー此人ア昔羽屋なんぞを氣取てサアろんな事を云てゴマカさうツたツて其如は參りませんよ私の今讀でたバルザツクの小說の中に斯いふ事が御在ますよ仔細お聽きなさい「凡そ此世に生れ出でたらん娘子達が良人に持たばやと思ふ男の昔を知りなば婚禮の席に臨みし時に及びてさへも婿を見棄つる嫁御は嘸や多かるらん」

良人 併しおころやお前はバルザツクなんテ云ふ樣な總て佛蘭西の浮氣な國風に阿諛り諂諛ふ小說者の戲言を眞軀に受ける氣かエ餘り見ツともなさ過ぎるじやないか此身には「昔」と云ふことはないよ此身の爲めにはお前が過去現在未來と云ふものだ想起せばオー夫れよ去歲の卯月の末つ方、隅田の堤の花盛りお前が態と落した絹の手巾、それを返しに出逢ふた所は言問團子、花より團子のゲビスケもお前の容色には見とれて仕まツて團子を二ツ犬に掠れたツけ彼れは惜かツたよ夫れはさうとマア考へて見なさい彼の時、此身は學校から出たてのホヤ〳〵五年の苦學の其間は、鮪の澤庵より外、何にも御馳走を食たことのない男、料理屋に行くとやかまし藝者を揚げるじやなし石部金吉金兜、偶々餘儀ない同窓親睦の宴會に出席すればとて朋輩に野暮と云はるゝも構はず室の角にマヂリ〳〵として居た正直者お前を一目見ると何が扨、生れて始めて身に染々と戀風の染渡りては束の間さへも忘られず此世は戀か戀は未來までも添ひ遂げばやと思込みたるお前の外に他し女子に心を寄せしこと一任やヒラミツドが海となり太平洋が桑畠に變ずるとも弓矢八幡も照覽あれ此身に昔て戀なし夫れを何ぞや此身に「昔」があらうとは

と疊み掛けて說き…
ひが如く訴ふるが…
つ
ろりや貴郎、あん…
宅の亭主だツて申…
るまいし其如な氣…
れに貴郎と私は見…
から夫婦に成て未…
大抵の事モは御坐…
往生づくめに夫婦…
れ隙しなさるのは…
すれ恨みで御在ま…
が少しも可愛ゆく…
と涙まなりに語る…
込み
エーヒれツたい仕…
言葉がチツト過ぎ…
うと云ふのか
と詰れば内君は獨…
だツて貴郎、たツ…
ちやア大名人の一…
れにマダ其舌の根…
ラツポコを云て一…
するもんですか馬…
ッに夫婦に成たの…
ますから早く彼の…
と思掛けなき城下…
なけれども云ひ解…
胸を据え
れおころや此身やお…
の古疵を探り出す…
妻 そら御在ませ…
云ふなら
のは知て居ますよ…
仕まひたい程可愛…
るものですかサア…
ツたいよー
と獨無性に悅に入…
らぬ體にて
此身が此むかしの…
を悪くするとも夫…
いふとでもなく…
び思出すまいと思…
と感慨の涙をハン…
みて膝推進め
ろりや宜しう御在…
がするとも一部始…
良人 スツカリ聽…
妻は涙息つきて
アイ、スツカリお…
良人は恥かしさと…
に顏を背けて
扨お話し申すが…
生涯中で一番可愛…
と此一言におころは…
れど流石に胸打騷…
へエー夫れから…

時事新報社電話番號 百四十九番

時事新…